

平成 29 年度 第 2 回 長野市立博物館協議会 議事録

日 時 平成 29 年 12 月 19 日(火) 午後 2 時 00 分～午後 4 時 15 分
場 所 長野市立博物館 1 階 教室
出席委員 立岩会長・宮下副会長・相澤委員・浅倉委員・石坂委員・倉石委員・東福寺委員・
三井委員

1 開会

2 あいさつ

3 協議事項（議長 立岩会長）

（1）平成 29 年度事業の進歩報告（原田係長）

（立岩会長）「説明に対し、何か質問があったらお願いしたい。」

（倉石委員）「前回も申し上げたが、これをやってみてどうだったのか、課題とか反省、何が問題か、何を改善したかを言っていたかないと、こちらとしても何を言ったらいいか。」

（立岩会長）「それぞれ担当者として課題などを率直に言っていただければ。」

（倉石委員）「これからの（協議会の）やり方として、その方がよいと思う。今では資料を見ればわかる。」

（立岩会長）「次の（協議会の）課題としていただいて。ここでは感想などを言っていたければ。」

（千野館長）「では、主な事業ごとの担当に述べさせたい。まず、原田から一言で。」

（原田係長）「ドキュメンタリー信玄と謙信、激突川中島の戦いの 2 本をやったが、川中島の戦いというやることが分かってしまい、同じものになってしまうので、切り口を替えて、川中島とは直接関係のない真宗について扱った。反響があり、地域に貢献できたのではないかと、自分では思っている。これからもまたやらせてもらえるなら、切り口を替えていきたい。」

（樋口主事）「こなものとツクリモノの展示では、両方とも当館で一度展示したものを出した。20 年前と同じものをやるわけにはいかないの、現在の状況を踏まえてやった。こなもの展では寄託資料の見直しを行った。展示をしたことで、寄託から寄贈になり、後につながったと思っている。ツクリモノについては、近年もやっており、来館者の方に『また同じものをやるの？』と思われなようにするにはどうしたらよいか課題だと思う。」

（成田係長）「国立科学博物館との連携で展示を行った。オーソドックスな恐竜の展示だっ

たが、その関係で先日観光に関するシンポジウムも行った。パートナーとのもの語りワゴンの導入などができた。毛皮に触れるコーナーなども設置し、来館者が多く好評だったが、一日千人近く入館があった日があり、受付の対応がうまくいかないときがあった。迷惑をかけることもあったので、課題だと思う。」

(陶山主査)「今年は特別展を担当させていただき、プラネタリウム、天文に関する展示をした。天文と歴史、人文系が両方あるのは全国的には少ないので、それを生かせないかと思って企画した。内容としてはマニアックになり、来館者が多かったわけではなかったが、天文の関係者や遠方から来ていただいた方もいて、図録が売れた。広報のやりかたなど、課題と思った。」

(前澤主事)「今年は長野で活躍しながらスポットが当たらなかったものを取り上げた。西沢今朝夷先生の作品を展示した。(西沢今朝夷の説明 中略)リピーターが大変多い。市内の美術館は長野市の作家を取り上げないので、水彩というのは新町の美術館とも合うので、よかった。写真展は、雑誌フォトグラファーとして有名だが、これまで取り上げられていなかったもので、取り上げたところ、来館も多く、好評だった。」

(小山美術館長)「公民館や学校に私はいたので、これらにチラシを配るようにした。」

(畠山係長)「今年は、本館での恐竜展に協力したので、戸隠もそうだが、例年よりも展示本数が少なかった。期間を長くし、後半の展示は焼き直ししたもの。そのかわり、夏に本館とのコラボ企画を行った。本館と戸隠、新町のスタンプラリーを実施し、本館から新町や戸隠に回ってもらった。また、これは新町だけだが、本館で展示した立派な恐竜の標本をその後新町でも展示した。それを目当てに来ていただいた方がいた。」

(立岩会長)「今の話、自分はこうやりましたという話に終始してしまったように思うが、自分からこれはどうですか、ということはないか。展示を企画する時、検証のためにまわりに質問することはあるか。この場で質問をしてみてもどうか。」

(小山美術館長)「著名な作家の作品を集めて展覧会をやれば、多くの人に来館いただけるので、やりたいが、高くて手が出せないことがある。これについては。」

(立岩会長)「まあ、著名な人を扱えば人が来るのはそうだが、今年はこう言ってはよくないかもしれないが、今年の課題としては、名もない人を取り上げたよう。そこはどうか。ただ人を集めるのがいいのか、そういうものじゃないというのがあるのか。」

(倉石委員)「理想と言われるかもしれないが、入館者数だけではなく、郷土の作家や資料の意味をしらしめるのも重要な仕事ではないかと私は思う。長野市ではこう分布しているけど、全国はこう分布しているので、こういう特色があるという情報を提示すると、そこに行ってみようとなる。美術館や化石館も同じ。」

どういうスタンス、役割をとるかといった姿勢が明確になるとまた違ってくると思う。」

(立岩会長)「それは理想的で、入館者数ばかり評価につながってしまうこともあるだろうが、そこはどうか。それだけではないというのは。行政側に対して館長はどうか。」

(千野館長)「なかなか。本当は両方が達成できると一番よいのだが。今年全体みて感じるのは、原田にお願いした川中島展は、信州デスティネーションキャンペーンで市からのトップダウンという経緯があった。予算がない中で、面白い展示と私は思っているが、我々が本当に展示をみてもらうのは、観光客か市民かというのは考えていかなければならない。日々苦心している。ただ、本館の特別展示の予算は、毎年若干ずつではあるが増やしているのがここ数年の実績。ある程度理解はしてもらっているかとは。予算、入館者数多少なりとでも右肩上がりになればと。」

(立岩会長)「企画にあたっては、担当者が個人的に決めているのか。全体で検討しているのか。」

(千野館長)「全体にしたいが、まだどうしても個人の専門で、となってしまうところがある。」

(小山美術館長)「美術館では例えば、街のなかにあるお宝をうまく集めることをやってみようと話だけはするが、なかなか。世代が代わって郷土の画家の作品がわからなくなったり。」

(立岩会長)「館長としては、全体にこうしたらどうかと話をしていると。他は、お互いやっていることを『どうなのか?』と求めたり、言い合うことはあるか。」

(千野館長)「まだ活発ではないかと。」

(立岩会長)「そういう意味では、委員が言ったことを参考にさせていただければと思う。」

(宮下副会長)「難しいこと。スタッフは固定しているし。展示をやることによって将来どうなるか、どんな意味があるかが大切。展示やるときに訴えたいことを端的に示しているか。こなものと小正月については、タイトルが何を訴えたいかわからない。つめてつめて頂点に出てくる言葉をつけるべき。あまり入館者数だけに追われなくて、学芸員が資料を掘り起こして、子どもたちの未来に残せることを考えて。」

(立岩会長)「個人で決めているからか。自己満足になっているという面はないか。他の人に意見を求めることはしていないのか。」

(千野館長)「職員会議と学芸会議の2回の会議で何回かもんでいるが機能していない面もあるのだろう。」

(相澤委員)「今までの話は、シンポジウムの時に感じたことと同じ。観光で多くの人に来てもらって地域に開かれた所にするのか、学術研究棟として自分たちだけで

やるのか、どちらのスタンスでやるかが大切。ちょっとわからないところもある。それがはっきりしないと地元としてもなんとも言えない部分もあり、そこまで言うとう芸員の方の人生観になってしまうので、どうこういえないことでもあるが。自己満足でもいいけれど自分の研究を打ち出していくんだというのは、百年先にはよいかもわからない。平成30年だけでなく、まずは当面5年間、観光客をいれて入館者数を増やしていくんだというのは、存続基盤としてあるような気がする。接していても、そのあたりはわからない面もある。これは感想だが。」

(浅倉委員)「わからないのどうかはたいが、同時期に行われている展示の人数カウントはどうしているのか。」

(原田係長)「博物館の受付での入館者数でカウントしているので、各展示別々のカウントはしていない。正確にこの展示を見た人の人数ではないので、問題があるかもしれない。」

(千野館長)「特別展の時は常設展と同じチケットなので、カウントできないという問題がある。」

(東福寺委員)「昔から博物館が好きだが、ここ3~4年の博物館の活発さを感じている。来館者数の人数の問題あるといったが、恐竜展は多かった。朝野北水については、まったくこの人を知らなかったが、これを見て、あ、こういう人いるんだ、と。主婦の目線。講演会は多くの人が出てよかった。博物館、この一年は山あり谷ありだろうが、とてもよかった。美術館、西澤さんは私も大好きなのでこっそり展示に行った。山の絵も、長野は山があるからよい。」

(石坂委員)「子どもを恐竜展につれていったが、大人のための博物館なのかな、と思ったので、年に一度は子ども向けでもよいのでは。流行に乗るのもよいのではないかと思う。今刀剣が流行っていて、私の子どもも刀剣が好き。足利市で展示をやっていて、私も行ったが、展示の待ち時間に街をまわられるようになっていて、地域をまわる工夫があった。だから、流行に乗るのもよいのではないか。」

(三井委員)「個人としては何年もきていなくて申し訳ないが、ここは川中島にあって郷土、市の歴史に特化しているのがいいと思う。6年生は(長野県立)歴史館に行き、3年生はこちらだが、6年生もここにくると良いと思っている。展示タイトル、先ほど指摘されたが、川中島古戦場と郷土の暮らしを伝えるという意図を私は感じる。いいと思う。地元とのかかわりをもちやすくなってくると思うので。地元の特化したもの、根付いたものを大切にするのが大切と思う。」

(相沢委員)「昨年、5年計画を出して方針を出してもらってワクワクした。地域とか観光客も含めてこの方針を達成していく、博物館学を極め、観光学を極め、地元

学を極め、それぞれが連携して、『学』まで高めるのが大切ではないか。ただ人を集めればいいのではなく。私は今、地元のおばあちゃんに聞き取りをしているので、学術的にも協力してもらえると嬉しい。」

(立岩会長)「それぞれ、担当学芸員は参考にし、仕事に取り組んでいただければ。」

(2) 平成 30 年度事業の計画概要 (細井係長)

(浅倉委員)「3点わからないので、教えてほしい。まず、1頁最後、学芸研究会の開催についてはどれくらいの頻度で何回やるのか。2つ目、銅像観音菩薩立像の公開は、今年と同じか。3つ目、資料購入は何を買う予定か、明かせる範囲でかまわないので。」

(細井係長)「学芸研究会については、まだ詳細は決まっていない。これは、数年前までやっていたが、様々な分野で話がかみ合わなかったり、ただの紹介で終わってしまっていたので、研究会としてできるようにしたい。」

(原田係長)「二点目については、同じもの。まだ内々ではあるが、飯山で今年栗岩の展示を行った時に古い仏像が出ていたので、これ以外も出す予定でいる。資料購入については、(資料の)数字は役所向けなので削除していただきたい。内容としては落合家文書を予定している。関東管領上杉氏の書状などの流出したものの。全15点ほどあるが、あと3~4点残っているの。」

(倉石委員)「2頁の収蔵資料展の茶壺は、茶入れか。茶道で使うものか。」

(細井係長)「茶壺。お茶屋さんで茶葉を入れたもの。」

(倉石委員)「わかりにくいのでは。タイトルを変えた方がよいのでは。また、これも事前に配布資料としてあった方が目を通せるので良い。」

(宮下副会長)「学芸研究会やっていないというのはショックだった。びっくりした。ここは人材的にも揃っている。そこで展示の内容、やり方をもむのが大切で、質もレベルも高まる。充実してほしい。」

(倉石委員)「分野の違う人たちが話し合うことが大事。」

(立岩会長)「やっていただきたい。」

4 その他

5 閉会